

ごあいさつ

広島県安芸郡熊野町

町長 三村 裕史



「第50回記念ふれあい書道展」が、多くの書道愛好家の御理解と御協力をいただき開催できましたことに対し、厚くお礼を申し上げます。

広島県熊野町は、伝統的工芸品「熊野筆」で知られる「筆の都」として、長年その文化を継承し、栄えてまいりました。現在は書道用の筆はもちろんのこと、化粧筆や画筆においても高い技術と生産量を誇っております。

本町では、昭和初期から続き、現在も毎年秋分の日に行われている伝統的行事「筆まつり」の開催や平成20年には、町、事業者及び町民が連携して、筆の歴史と文化の価値を改めて認識し、その魅力を発信することを目的として、条例で春分の日を「筆の日」と定めるなど、「筆の都」として、町全体で筆文化の伝承と発信に取り組んでいます。

さて、この度は、全国47都道府県のほか台湾やタイなどの海外からも出品があり、最年少は2歳から最高齢は107歳までの幅広い書道愛好家の方々による、過去最高の21,919点のご応募をいただきました。このことは筆の都熊野町として喜ばしいことであり、筆を持ち、書に親しむ楽しさを多くの方に味わっていただくことで、筆文化の振興と筆を通じた交流が深まっていることを実感しています。

また、全国の書道愛好家を対象とした公募展として平成11年から続くふれあい書道展は、ひとつの節目である記念すべき50回目を迎えることができました。ここまで続く大きな公募展になりましたのは、書を愛する皆様のおかげでございます。

書を志す方はもちろんのこと、少しでも書道に興味のある方、腕試しをしてみたいという方も次回以降、是非ご参加いただき書を楽しんでいただきたいと思っております。

結びに、この書道展を開催するにあたり、広島県、広島県教育委員会その他関係諸団体の皆様から御支援、御協力をいただきましたことに深く感謝の意を表し、御挨拶といたします。

第50回記念ふれあい書道展について

全国書画展覧会運営委員会

委員長 時光良造



「ふれあい書道展」は平成11年の開催以来、今回記念の50回を迎えることができました。これもひとえに書道愛好家の皆様方の永年にわたるご支援のお陰と深く感謝を申し上げます。

今回は47都道府県と海外の1,713団体から過去最高の21,919点もの力作が届きました。本書道展にふさわしく、2歳から107歳の方まで、実に幅広い年齢層の方からご出品いただきました。この度、栄えある賞に入賞されました皆さん、誠におめでとうございます。

今回は50回記念ということで、第50回記念特別賞と団体賞を追加いたしました。また、今回も台湾やタイから多くの作品が届き、海外においても筆を持ち、書に親しんでいる様子を伺うことができました。

今回も最終審査は審査長として、元文部科学省教科調査官で東京学芸大学名誉教授の加藤祐司先生、前文部科学省教科調査官で東京学芸大学教授の加藤泰弘先生にご依頼しまして、特別賞44点の作品を厳正に、丁寧に選んでいただきました。

「特別賞」「筆都大賞」「ふれあい賞」の優秀作品は、筆の都熊野町の町民会館ロビーにおいて、3月13日から3月18日までの6日間、展覧会を開催いたしました。展覧会場の様子は、全国から見ていただけるようにホームページで3月下旬から配信いたしますのでご覧ください。

本書道展は、小・中学生は書写作品を推奨し、いわゆる書の流派などにとらわれない公正公平な審査を高く評価していただいています。また、筆を持ち、作品を創作した記念にさせていただくため、出品者全員に作品画像入りの賞状を贈呈しています。日本の伝統文化である書道を通じて、多くの仲間とのコミュニケーションが広がり、心豊かな生活を創造できるようにと願っております。次回も皆様方からの出品をお待ちしています。

終わりに、この書道展の運営及び開催に当たり、広島県、広島県教育委員会をはじめご後援、ご協力をいただきました関係各団体の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。